# 人形浄瑠璃 猿八座公演

２０２０年サントリー地域文化賞受賞

# 信太妻（しのだづま）

## 葛の葉子別れの段

**2023 年**

# 6 月 4 日(日)

**13:00 開場　13:30 開演　15:00 終演予定**

会　場｜３階多目的ホール　ドナルド･キーン･センター柏崎
定　員｜50名　要予約
鑑賞料｜1，000円　当日会場にて猿八座応援金として募金し、
全額を猿八座へ寄付します。
※当館への入館料は別途必要です。
問合せ｜0257-28-5755　ドナルド･キーン･センター柏崎

**次回公演は、11 月 5 日(日)13：30～　演目「越後國柏崎　弘知法印御伝記」を予定しています。**

ドナルド・キーン・センター柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

# 「信太妻」解説とあらすじ

仏教の教えをわかりやすく物語にして節を付けて語る語り物「説経節」が「浄瑠璃」とともに中世に始まりました。16 世紀中頃には三味線の普及につれ、操り人形をともない、上方や江戸で庶民の娯楽として人気を博しました。「信太妻」は「苅萱」「山椒太夫」「小栗判官」「愛護若」とともに説経節の五大名作の一つに数えられています。

平安時代に実在した陰陽師・安倍晴明は宮中の天文博士として、並外れた占いの力を発揮し、いつの頃からか、晴明の母は狐だという伝説が生まれました。近世には浄瑠璃の演目となり、歌舞伎、舞踊、瞽女唄、神楽など様々な芸能の題材になっています。最古の台本は 1674 年に刊行されました。今回、当時の詞章そのままに、五段のうち「葛の葉子別れ」で知られる三段目を上演します。

和泉の国（現在の大阪府）、信太の森近くに、ひっそり暮らす家族があった。秋の一日、夫、安倍保名は畑を耕しに、今日も野良へ出かけた。妻、葛の葉は七つになる安倍の童子（成人して陰陽師安倍晴明になる）を寝かしつけ、はたを織り始めるが、庭に咲き乱れる菊の花に見とれるうち、うっかりその本性を現してしまう。実は妻は、以前保名が命を助けた狐の化身であった。目を覚した童子に狐の姿を見られた妻は、最早人間界にとどまる事を許されない。夫と我が子への尽きぬ思いを一首の歌に残し、妻は泣く泣く信太の森へ帰って行く。

恋しくば尋ね来てみよ和泉なる信太の森のうらみ葛の葉

あきらめきれぬ父子は葛の葉の姿を求め、日の暮れた森をさまようが見付ける事が出来ず、悲嘆のあまり自害しようとする。そこに狐が現れ、再び葛の葉の姿となって童子に形見の品を与える。成人した童子はその形見の不思議な力で、帝の病の原因をつきとめ、宮廷お抱えの陰陽師となる。

**三味線弾き語り　渡部 八太夫**
**人　　形　西橋 八郎兵衛……葛の葉（実は狐）**
**堀 八島　　……童子（後の安倍晴明）**
**逸見 八里　　……安倍保名・猟人**
**永野 八尋　　……乳母**
**舞台監督　高橋 八重**
**解　　説　川村 知行　上越教育大学名誉教授**

**猿八座では、随時座員を募集中です。（問合せ：080-2012-9115 西橋座長）**